各種調査結果から見える都市大の教育

2020年度版

東京都市大学では、学生が社会で通用する学修成果を身に付けて卒業することができるよう、教育目標と卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）で掲げた学修目標に則って教育改革を推進しています。その中では、在学生や卒業生、産業界の皆様に各種調査に協力していただき、その結果の把握と分析を通じて教育改善の促進、教育制度や教育内容の充実に努めています。ここでは、2019年度版に引き続き、2020度版として調査結果の概要を紹介します。

東京都市大学
TOKYO CITY UNIVERSITY

卒業生調査

2016年度から卒業後5年・15年を経過した卒業生の協力を得て調査を実施しています。2016年度と2017年度の調査結果は、教育改革を実現する上での指針として重要な役割を担う大学全体の教育目標と3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）を策定する際の貴重な情報になりました。その後の調査結果も、実社会での経験、仕事で求められている能力や実践の度合い、在学中の学修行動等の把握を通じて、4年間の学びの中で強化すべき資質・能力を継続的に確認することで、こうした力を学生が身につけていくための施策の検討や、早期から実社会を意識して学生が自ら学びのPDCAサイクルを回していくことができるようにキャリア支援等で活用しています。

【2019年度調査結果】
実施時期：2019年12月～2020年2月
回 答 数：2004年卒 209人、2014年卒 373人
回 収 率：20.5%

自己啓発の時間

2004年卒　平均約 **2.7** 時間／週

2014年卒　平均約 **2.4** 時間／週

リテラシー系

仕事で求められている能力 ※1

2004年卒

1位 相手の立場理解とわかりやすく伝える力……98.0%
2位 問題発見と考察実行力……95.9%
3位 論理表現力……93.8%
4位 多様な情報源の収集整理活用……89.3%
5位 業務用ソフトの活用……84.7%
5位 お互いの利害の理解、交渉力……84.7%

2014年卒

1位 相手の立場理解とわかりやすく伝える力……95.8%
2位 問題発見と考察実行力……90.7%
3位 論理表現力……86.4%
4位 多様な情報源の収集整理活用……82.0%
5位 業務用ソフトの活用……78.9%

仕事で実践できている能力 ※2

2004年卒

1位 相手の立場理解とわかりやすく伝える力……85.7%
2位 論理表現力……83.8%
3位 業務用ソフトの活用……83.3%
4位 問題発見と考察実行力……81.2%
5位 多様な情報源の収集整理活用……80.7%
5位 物事の分析・理解・表現力……80.7%

2014年卒

1位 業務用ソフトの活用……79.2%
2位 相手の立場理解とわかりやすく伝える力……66.7%
3位 多様な情報源の収集整理活用……61.2%
4位 論理表現力……58.8%
5位 問題発見と考察実行力……56.3%

コンピテンシー系

仕事で求められている能力 ※1

2004年卒

1位 人との関係を大切に協調的行動……95.9%
2位 責任感と使命感……95.4%
3位 仕事のやり方に関する創意工夫……93.9%
4位 やるべきことを定め自らを律して行動……90.8%
5位 向上心をもって学び続ける努力……87.9%

2014年卒

1位 責任感と使命感……92.6%
2位 人との関係を大切に協調的行動……91.6%
3位 やるべきことを定め自らを律して行動……87.9%
4位 仕事のやり方に関する創意工夫……85.1%
5位 向上心をもって学び続ける努力……83.1%

仕事で実践できている能力 ※2

2004年卒

1位 責任感と使命感……90.9%
2位 人との関係を大切に協調的行動……86.8%
3位 仕事のやり方に関する創意工夫……85.8%
4位 やるべきことを定め自らを律して行動……83.9%
5位 向上心をもって学び続ける努力……77.2%

2014年卒

1位 責任感と使命感……81.9%
2位 人との関係を大切に協調的行動……80.5%
3位 やるべきことを定め自らを律して行動……73.6%
4位 仕事のやり方に関する創意工夫……69.0%
5位 向上心をもって学び続ける努力……68.1%

リテラシー系　大学の経験が活かせているもの

2004年卒

1位 数学を使った分析理解表現……47.4%
2位 業務用ソフトの活用……45.9%
3位 論理表現力……42.6%
4位 多様な情報源の収集整理活用……36.4%
5位 問題発見と考察実行力……35.4%

2014年卒

1位 業務用ソフトの活用……49.9%
2位 数学を使った分析理解表現……43.4%
3位 論理表現力……39.7%
4位 相手の立場理解とわかりやすく伝える力……39.1%
5位 多様な情報源の収集整理活用……35.4%

コンピテンシー系　大学の経験が活かせているもの

2004年卒

1位 人との関係を大切に協調的行動……45.5%
2位 やるべきことを定め自らを律して行動……38.8%
3位 責任感と使命感……38.3%
4位 仮説立案と検証による業務の遂行……34.0%
5位 向上心をもって学び続ける努力……32.5%

2014年卒

1位 人との関係を大切に協調的行動……51.5%
2位 やるべきことを定め自らを律して行動……42.9%
3位 責任感と使命感……35.9%
4位 向上心をもって学び続ける努力……34.6%
5位 仕事内容、やり方に対する創意工夫……28.4%

海外業務が自分にとって有益である

2004年卒 **73.7%**
2014年卒 **68.9%**

海外での業務希望

2004年卒 **54.5%**
2014年卒 **49.6%**

大学に対する満足度 ※3

2004年卒 **80.3%**
2014年卒 **69.6%**

卒業時の就職先への満足度 ※4

2004年卒 **65.1%**
2014年卒 **68.4%**

低学年から学生自身がキャリア形成の展望をもって、主体的な学びにつなげていくための取組を進めています。

大学時代に学んだことや経験の役立ち度

大学できちんと学びながら、就業経験を積むことも社会に出てから役立っているようです。

2004年卒
1位 卒業研究・ゼミ **67.8%**
2位 アルバイト（学内含む） 67.3%
3位 大学の専門科目 64.0%

2014年卒
1位 卒業研究・ゼミ **63.9%**
2位 大学の専門科目 61.6%
2位 アルバイト（学内含む） 61.6%

卒業生調査の結果から

今回の結果からも、多くの卒業生が責任感や規範意識を持って、周囲の人々との関わりを大切にしながら社会で資質・能力を発揮していることがわかります。この結果は、都市大のディプロマ・ポリシー（DP、図表1）の3と4で掲げている内容と合致しており、本学の強みとして、こうした卒業生をこれからも多く輩出できるようにしていきます。また、卒後15年だけでなく、卒後5年でも「問題を発見し、その原因と解決策を考え、実際に行動できること」と「論理的に筋道を立てて、表現できること」を相当求められていることがわかります。卒後5年でもこうした資質・能力の要求に対する実践の度合いが高まるように、リーダーシップやフォロワーシップ、社会のニーズの変化をキャッチアップする力、国際性などとともに、本学の教育活動において継続的に力を注いでいく必要性を確認できました。

※1「特に求められている・それなりに求められている・どちらともいえない・あまり求められていない・ほとんど求められていない/わからない」でのTOP2の割合
※2「後輩や部下等に指導できる・一人でできる・どちらともいえない・上司や先輩からの支援があればできる・できていない/わからない」でのTOP2の割合
※3「とても満足・満足・やや満足・どちらともいえない・やや不満・不満・とても不満」でのTOP3の割合
※4「とても満足・満足・やや満足・どちらともいえない・やや不満・不満・とても不満・新卒では就職していない」でのTOP3の割合

学生実態調査
（在学生＋卒業時）

2、3、4年への進級直後の4月（卒業時は3月）に、前年度の状況について、進学目的の達成度、学修行動、身につけた力に対する自己評価、学生生活、満足度等について調査しています。その結果は、大学全体と各学部・学科で教育目標等を踏まえながら分析し、改善活動につなげています。

※実施時期 在学生（2～4年生）：2020年4月
卒業時（2019年度）：2020年1月～3月
※回 収 率：96%
2年生：96.3%、3年生：97.7%
4年生：97.0%、卒業時：91.8%

学科授業について

1位 専門の基礎となる授業が充実している… 60%
2位 専門教育の授業が充実している …… 51%
3位 興味を持てる授業が充実している …… 28%

都市大で身についた力

リテラシー系

一般的・基礎的な力
1位 専門分野の基礎的な知識 …… 62%
2位 幅広い視野や考え方、教養 …… 30%
3位 専門分野と関連する他分野の知識 …… 26%

論理的思考力・問題解決力
1位 物事を批判的・多面的に考える力… 36%
2位 現状を分析し、問題点や課題を発見する力… 35%
3位 必要な情報を収集・整理する力 …… 30%

コンピテンシー系

コミュニケーション力
1位 人と協力しながら物事を進める力… 52%
2位 人の意見を丁寧に聴き内容を理解する力… 35%
3位 自分の考えを相手に伝わるように話す力… 29%

倫理観、社会的責任
1位 社会のルールや規範に従って行動する力 …… 44%
2位 自分の感情を上手にコントロールする力…… 31%
3位 学び続ける姿勢 …… 29%

1日の時間の使い方

▼ 授業への出席
平均約 3.6 時間／日

▼ 授業の課題・準備・復習
平均約 1.5 時間／日

▼ 授業について友人とのデスカッション
平均約 0.8 時間／日

▼ 資格取得等勉強時間
平均約 0.8 時間／日

▼ アルバイト時間（学内含む）
平均約 3.2 時間／日

改善してほしい施設

1位 学食・売店関連
設備広さ…… 34%
価格・メニュー… 33%
売店…… 20%
2位 図書館…… 16%
3位 部活動施設…… 10%

悩んでいること

なし 48%　ある 52%

内 訳
1位 進路・将来に関すること 37%
2位 勉強に関すること 18%
3位 金銭に関すること 14%

悩みや不安があるときには学生相談室等も活用してください。

後輩推奨度

全体 40%
1年終了時 38%　2年終了時 35%
3年終了時 43%　卒 業 時 43%

各学年とも「わからない」と回答した学生の割合が40%以上います。

資格を取りたいと考えている学生 ※5

58.9%

取得希望資格については、学部・学科ごとに差異があり、学部・学科の学問と紐づいた資格取得希望者が多くみられます。

※5「今後取得したい資格」の質問において、全体から当てはまるものはない、無回答と回答したものを除いた割合

シラバス活用度 ※6

79%

シラバスの分かりやすさ
63%

学修要覧活用度 ※6

86%

学修要覧の分かりやすさ
68%

※6「活用した・やや活用した・あまり活用しなかった・活用しなかった・無回答」でのTOP2の割合

所属学科の教育満足度 ※7

全体 85%
1年終了時 82%　2年終了時 82%
3年終了時 87%　卒 業 時 90%

学校生活満足度 ※7

全体 85%
1年終了時 83%　2年終了時 81%
3年終了時 86%　卒 業 時 89%

※7「満足している・やや満足している・あまり満足していない・満足していない・無回答」でのTOP2の割合

学生実態調査

卒 業 時

卒業時には在学生と同一の項目に加え、全学部・学科で必修としている卒業研究に対する取組や成長実感等も確認しています。

卒業研究に努力して取り組めた

90%

1日の時間の使い方・卒業研究（卒業時調査）

平均約
5.1
時間／日

卒業研究の成果（卒業時調査）

1位 自分の研究したいテーマについて追及できた
2位 研究の姿勢を学ぶことができた
3位 研究室の仲間とつながりができた

卒業研究を通した成長実感

成長できた
90%

学生実態調査の結果から

調査結果の概要

2020年度の調査では、前年度と比べて専門知識や技術を身につけることへの関心が全学年で高まっていることが把握できました。学科の授業に対する評価では、「専門に関する授業が充実している」ことや「興味を持てる授業が充実している」と回答した学生も例年同様に高い割合でした。現在までに身につけた力では、今回の調査でも「人と協力しながら物事を進める」「社会の規範やルールに従って行動する」の割合が高くなっています。これは、都市大の全学共通のディプロマ・ポリシー（図表1）で重視している資質・能力であるとともに、本誌面で紹介している『求める人材・大学教育へのニーズ実態調査』の結果でも重視されている、都市大生にとって強みになる力です。

一方で、「国際性が身につく授業が充実している」と回答した学生や、「外国語でコミュニケーションする力」「国際的な視野」が身についていると実感している学生の割合を向上させていく必要があるといえます。

授業外の学修時間はこの数年は増加傾向にあり、1週あたり約15時間で定着してきましたが、今回の調査は前年度とほぼ同じ結果でした。より一層学生の主体的な学びを促進するためには、シラバスや学修要覧の活用、分かりやすさについても改善・向上の余地があることも把握できました。学科教育と学生生活の満足度、推奨度については前年度と概ね同じ結果でした。

図表1　東京都市大学のディプロマ・ポリシー（全学共通）

（自ら学ぶ力） 1. 主体的・自律的に学び、自己研鑽できる。
（課題を探究する力） 2. 「都市」に集約されるような複合的な課題に対してグローバルかつ未来志向の視点で取り組むことができる。
（ボーダーを超える力） 3. 多種多様なボーダーを超えて知識や考え方を共有し、新たな価値を見出すことができる。
（協働する力） 4. 公正・誠実に多様な人々と向き合い、柔軟に粘り強く協働することができる。
（実践する力） 5. 人類文化と社会を理解し、基礎的ならびに専門的な知識とスキルを身につけ、それらを総合して持続可能な社会の発展に貢献することができる。

卒業時調査

学生実態調査は2017年4月から調査票を改訂したため、2020年3月の卒業生は在学期間中の4回の調査をすべて改訂後の内容で実施しました。これによって、無記名方式であることや4年進級時にはWebで実施したことで回収率が変化したことを考慮する必要はありますが、1年生から卒業までの間に、どのような力を身につけたと実感してきたのか、満足度がどのように変化してきたのかを見ることができました（図表2～5）。

身についた力については、AからDの各カテゴリーの中で該当するものをすべて選択できますが、各学年とも特定の資質・能力の割合が高くなる傾向にあること、年次進行に応じて概ね増加傾向にあることが見てとれます（4年進級時では1年前・1年後に比べて割合が低い資質・能力がありますが、これが3年での教育内容に関係しているのか、あるいは事例研究などを通じて自己評価が厳しくなったことによるものかは、次回以降の調査を注視していく必要があります）。

また、全学共通のDPと照らし合わせてみると、全学DP「4.協働する力」や「5.実践する力」に対しては概ね合致する傾向にあることがわかりました。「1.自ら学ぶ力」については全般的に底上げできるように、「2.課題を探究する力」と「3.ボーダーを超える力」に対しては国際性や外国語でのコミュニケーション能力を高めていく必要があるといえます。

「学科教育の満足度」と「学生生活の満足度」は両者で同じ変化をしています（図表6）。

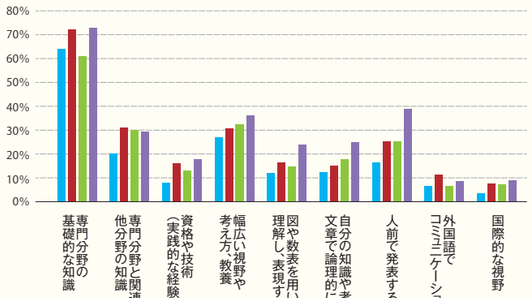
このことから、教育に対する満足度が学生生活の満足度と密接な関係にあること、学年進行に応じてそれぞれ向上してきたことがわかります。また、多くの卒業生が卒業研究にも努力して取り組んだ、成長できたと回答していますので、専門性、協働する力や人前で発表する力などを身につけたことで卒業時の満足度が高くなったと考えられます。

身についた力に対する自己評価の年次推移（2020年3月の卒業生）

■ 2年進級時（2017年）1,028名　■ 3年進級時（2018年）805名　■ 4年進級時（2019年）1,511名　■ 卒業時（2020年3月）1,403名

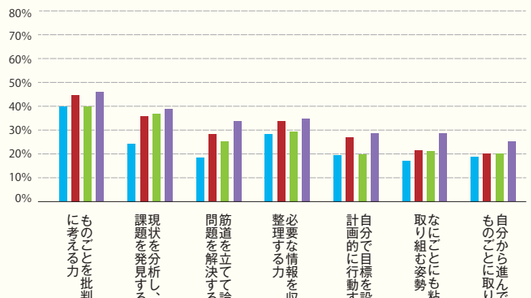
A 一般的・基礎的な力

（図表2）



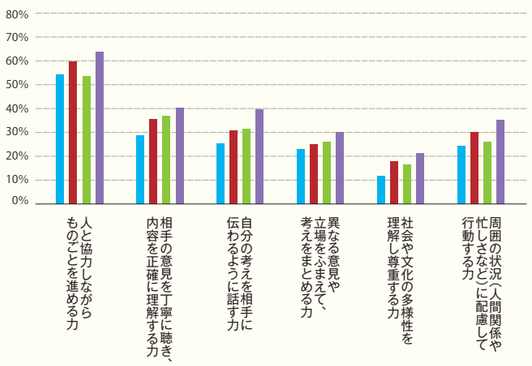
B 論理的思考力、問題解決力

（図表3）



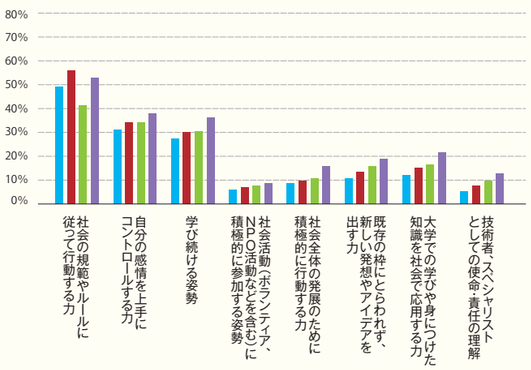
C コミュニケーション力

（図表4）



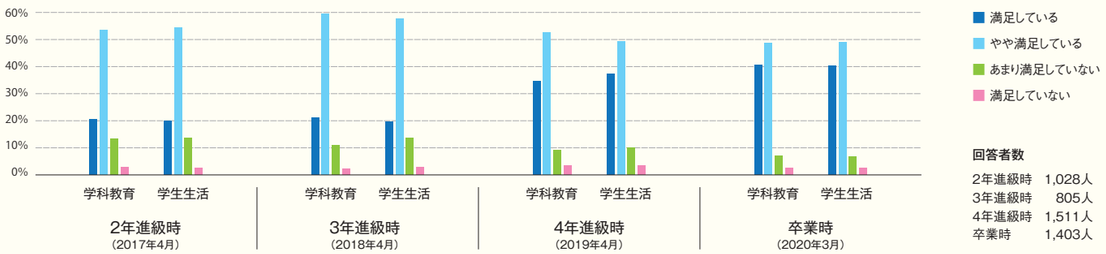
D 倫理観、社会的責任

（図表5）



卒業時の満足度（2020年3月の卒業生）

（図表6）



回答者数

2年進級時	1,028人
3年進級時	805人
4年進級時	1,511人
卒業時	1,403人

求める人材・大学教育へのニーズ実態調査

この調査では、企業において求める人材像などを把握し、「卒業時の質保証」を重視する本学の教育活動の改善に役立てています。

実施時期：企業：2020年9月
回 答 数：300件

詳細はHPをご覧ください
https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/requiringsurvay/

企業が考える学んでほしいこと・必要な能力・人材

大卒者の新規採用者に対して、重要と考える能力

1位	図・文章の読み取り・論理的思考力・構造化	90.0%
2位	傾聴力と信頼構築力	86.0%
3位	親しくない人とのコミュニケーション	83.9%
4位	情報収集・情報理解活用力	83.6%
5位	有効な解決策の模索と選択	80.6%

大卒者の新規採用者に対して、重要と考える項目

1位	チームワーク・協調性などのコミュニケーション力	91.0%
2位	言われなくても進んで取り組む姿勢	67.6%
3位	課題を発見し、解決するための計画を立てる力	66.2%

※8項目より3つ選択。

学生のうちに学んでほしいこと

1位	コミュニケーション能力・対人基礎力・協働力	66件
2位	多様な経験	29件
3位	基礎学力・一般教養・基礎的技能	27件
4位	問題発見力・問題解決力	18件
5位	自律性・主体性	16件

※自由記述の内容を分類、集計した。（有効回答179件）

学生のうちに特に力を入れて経験しておくべきこと

1位	専門科目（授業）	78.9%
2位	教養科目（授業）	62.4%
2位	卒業研究	62.4%
4位	実験・実習	60.7%
5位	部活動・サークル	59.1%

企業からの本学への期待・要望

本学カリキュラムに対する期待・要望

1位	仕事を遂行する上での基礎力修得（技術者）	75.8%
2位	基礎学力修得	70.3%
3位	高度な専門知識・技術修得	65.6%
4位	実社会での課題探求能力修得	62.9%

本学の教育に対する期待・要望

1位	実務・実学・実践力	7件
1位	専門性・技術力	7件
2位	基礎力	6件
2位	個性・人間力	6件
3位	コミュニケーション力・社会性	5件

※自由記述の内容を分類、集計した。（有効回答72件）

各種調査結果を踏まえて

学生の学修成果・大学の教育成果の向上のために進めている様々な施策について、これらが学生に十分に理解され主体的な学びに活かされているかどうかを継続的に検証し、より一層学生本位で教育活動にあたっていく必要性があるといえます。学生実態調査結果の分析では、大学への進学目的が明確な場合には4年間を通じて学修行動や満足度に良い影響を与えることが明らかになっています。多くの学生が早い段階から実社会やキャリア形成を意識できるような取り組みを促進しつつ、主体的な学びの中でコミュニケーション力、問題点や課題を発見しそれを解決する力、国際性を段階的に身につけていくことが重要になります。学部学科でも調査結果の分析を行い、それぞれのDPとカリキュラム・ポリシー（CP）に則って専門性を育んでいきながら、同時に豊かな教養や視野を広げることができる力も身につけ、4年間の学びを通じて必要な資質・能力を獲得できるように組織的な教育活動を強化しています。

その起点として、卒業時までに身につける資質・能力の目安・指針となるDPと、それを教育課程の編成等で具体化していく際の方針となるCPについて、これらの持つ意義や内容、学部学科が意図している教育内容や特長を学生がより深く理解することができるように、分かりやすく、繰り返し丁寧に伝えていくことが必要です。2020年度はシラバスの内容を充実させました。また、学修要覧にはすべての学部学科が学生の順次的・体系的な履修の一助とするために、教育課程の解説、履修モデルや履修系統図などの可視化した情報を掲載していますが、これらが学修活動の中で常に参照・活用されるように工夫していきたいと考えています。

また、卒業時の調査結果は、低学年での教育内容や教育システムの改善・向上が重要であることも示唆しています。そのため、海外プログラムや実社会と連携するプログラムの充実、4年間にわたる継続的なPBL教育として「SD PBL」（SD:Sustainable Development）の開講、学びの成果を記録して振り返ることができるeポートフォリオ「TCU-FORCE」（FORCE:FOR Career Enrollment）の導入など、DPで掲げる資質・能力を入学後から卒業までに段階的に身につけ、これを実感できるようにする施策を全学で進めています。

こうした教育改善の活動は、教職員だけの話し合いでは十分ではありません。FD（Faculty Development:教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組）では、2018年に学生FD委員会を立ち上げ、学生と教職員が協働しながらFDに取り組んでいます。コロナ禍での2020年度の授業の実施にあたっては、学生FD委員からの意見が後期での授業の改善・向上に大きく寄与しました。現在も継続的に学生と教職員がお互いにアイデアを出し合って、良い方策を見つけるための検討を行っています。

■ 発行年月：2021年3月　■ 発行者：東京都市大学 教育開発機構　■ 協力：企画・広報室（大学評価／IR）
お問合せは▶ efsg@tcu.ac.jp